

報文共有

非管理メモ

暫定版

(3枚)

NISA班←プレス対応 T 12/24 10:20 / 岩佐

プラント状況(本店会見) 議事メモ

取扱不可

~~~~~

日時：平成 23 年 12 月 23 日（金）18:00～18:30

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者 10 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所 使用済燃料共用プール建屋 天井クレーンにおける車軸連結部ケーシングの割れの確認について（調査結果）
- 福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所における対応状況について（平成 23 年 12 月版）変更点一覧

より、配付資料・プラント状況に関して説明。

質疑：

Q. バッファタンクから原子炉注水までのラインにおいて、2 m 程度の長さでホースが膨れた原因は分かっているのか。

A. 今までピンホールが発見されたり、カナフレックスが紫外線で劣化したりということはあったが、ホースが膨れるような現象は見られてないので、現在原因を調査している。

Q. 水圧等が原因ではないのか。

A. 圧力は 1 MPa 程度と低く、また下流で何かが詰まったとも考えにくい状況であるため、水圧による膨れでは無いと考えている。

Q. 放射性物質とは別の、何かの化学的反応があったということか。

A. 約 2 m の範囲のみホースが膨れているので、水との化学反応等ではなく、何か特殊な要因があるかと思っている。

Q. 使用済燃料共用プール建屋の天井クレーンにおける車軸連結部ケーシング割れについては、地震の揺れが原因であると確認できたということか。

A. その通り。車輪がレールに引っかかった際に、カップリングカバーと歯車が衝突し、衝撃的な荷重によりひびが発生したものと推定している。

Q. クレーン本体への影響はなかったか。

A. クレーンはロの字型をしており、本体や掴んだものに対しては落下防止軸が施してあるため、安全上問題となる地震の影響はなかった。

Q. 「福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所における対応状況について 変更点一覧」は、対応状況の変更点をまとめたものか。

A. 正誤表ではなく、12月2日の中間報告時の時系列の一覧表を加筆修正したもの。

Q. 原子炉注水ラインのホースの膨れについて、カナフレックスとは素材の名前か。

A. ホースの名前である。

Q. ホースは元々膨れやすかったのか。

A. ホースはバッファタンクから原子炉注水まで約1.4kmでありカナフレックスのホースに強化リングをつけていたが、その強化リングが約2mにわたって切れて膨らんでいるのを見た。これまでにはピンホールや劣化による割れはあったが、膨らんだのは初めてであり、今後、詳細に調査して参りたい。

Q. 今回割れを発見した天井クレーンと同じような構造のクレーンは、福島第一原子力発電所に他にあるのか。

A. 1～6号機まで全てに同じ構造のクレーンがあり、1～4号機は建屋が損壊しているので、詳細な状況は分かっていない。2号機については4階に上がった際に、クレーンが残っていることは確認できているが、詳細な目視点検はできておらず、1・3・4号機については建屋が爆発しているので建屋の崩壊と共にフロアに落ちているのではないかと考えている。5、6号機については、目視点検ができており、破損は確認されていないが電気品等でサビなどが発生していた。これは、一時的に冷却が停止されたことにより、高温多湿状態になったためと考えられており、今後、点検・部品交換を行う予定になっている。

Q. 3号機の原子炉注水ラインのホースが膨れた写真は撮っているか。

A. 準備したい。

Q. どのように膨れていたのか。

A. 蛇腹上にリングになっている部分が2mにわたって膨れていた。

Q. ホースが膨れた原因是、素材上の問題なのか、内部が詰まつたことによるのか。

A. 水が流れているため内部で何かが詰まつたことは考えづらいが、原因は確認している。

Q. メーカーに確認したか。

A. 原因は調査中。

Q. 12月18日に発見された集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋間のトレーニングにおける水たまりの流入経路は判明したか。

A. 詳細な原因は調査中。放射能濃度からは、雨水やプロセス主建屋からの漏えいではないかと考えている。

Q. 現時点ではどのくらいの流入があるのか。

A. プロセス主建屋の水位の方がトレンチより低いため、現時点の流入はほとんどないと考えている。

Q. 処理の過程で水位が変わっていることによるのか。

A. その通り。雨水の浸入によってトレンチ側の水位が上がり、プロセス主建屋側はキュリオンで処理しているため、水位が下がる。現在は水位が逆転しているため、トレンチ側からプロセス主建屋へ流入していると考えている。

Q. 「福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所における対応状況について 変更点一覧」の P.4 の 3 段目の記述を変更した理由は。

A. 確認する。

以 上